

今月のトピックス

- 咽頭結膜熱の報告数が増加しています。
- A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数が増加しています。
- マイコプラズマ肺炎の報告数が昨年と比べて多い状況が続いています。
- 夏季に向けて、腸管出血性大腸菌感染症に注意が必要です。

全数把握の対象

1 腸管出血性大腸菌感染症:21 件(O157 H7VT1VT2 9 件、O157 VT1VT2 12 件)の報告があり、うち 14 件(有症状者 8 名、無症状保菌者 6 名)は、大和市の同一の焼肉店での食中毒によるものです。他の 7 件については現在原因調査中です。通常、O157 などの菌は家畜の腸内に存在し、新鮮な肉でも表面に菌が付着している可能性があります。O157 食中毒予防のためには肉の中心部までよく加熱(75℃で 1 分間以上)しましょう。また、生肉を箸でつまんだ際に O157 が箸に付着する可能性があるため、生肉を焼き網に載せる箸と、食べるのに使う箸は別にしたリ、トングを使用しましょう。さらに、特に抵抗力の弱い乳幼児や高齢者では、溶血性尿毒症症候群(Hemolytic Uremic Syndrome:HUS)など重症化することがあるので、焼肉の喫食等には十分に注意しましょう。なお、感染者から 2 次感染することがあり、予防には手洗いが重要です。本疾患は例年夏季に感染者数のピークを迎えるので今後の注意がひきつづき必要です。

◆啓発用チラシ「O157 に注意しましょう」

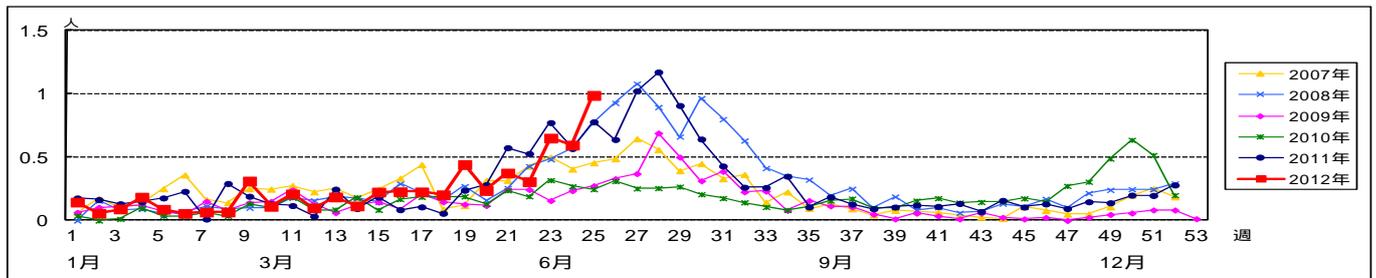
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf>

- 2 レジオネラ症:ポンティアック型 2 件、肺炎型 2 件の報告がありました。ポンティアック型 2 件は 60 代、70 代で、どちらも感染経路等は不明でした。肺炎型 2 件は 80 代、60 代で、1 件は自宅浴槽から PCR、培養検査とも陽性でした。もう 1 件は自宅浴槽から PCR 陽性、培養検査中です。どちらも同居家族等の明らかな感染は認められませんでした。レジオネラ症には肺炎型とポンティアック型(ポンティアック熱)があり、レジオネラを含んだエアロゾルの曝露を受けた人たちから、0.1%-5%が肺炎型を発病することがあるのに対し、ポンティアック熱の集団発生が見られる場合には、レジオネラを含んだエアロゾルの曝露を受けた人たちの約 90%がポンティアック熱を発病します。肺炎型は重症化することも多いですが、ポンティアック熱は、突然の発熱、悪寒、筋肉痛で始まるものの、一過性で治癒するため、集団発生でないといわれています。
- 3 アメーバ赤痢:腸管アメーバ症 2 件、腸管外アメーバ症 3 件の報告がありました。腸管アメーバ症 2 件のうち、1 件はインドでの経口感染が推定されており、もう 1 件は感染経路感染地域等不明です。腸管外アメーバ症 3 件はすべて肝膿瘍で、国内での異性間性的接触による感染が推定されています。
- 4 梅毒:2 件の報告がありました。1 件は早期顕症梅毒 II 期で、異性間性的接触でフィリピンセブ島での感染が推定されています。もう 1 件は無症状病原体保有者で、国内での異性間性的接触が推定されています。
- 5 風しん:2 件の報告がありました。1 件は 20 代で発熱と発疹があり、IgM 上昇のため診断となりました。予防接種歴は不明です。もう 1 件は 40 代で、発熱、発疹やリンパ節腫脹などの臨床症状とペア血清による抗体陽転化のため診断となりました。予防接種歴はありませんでした。

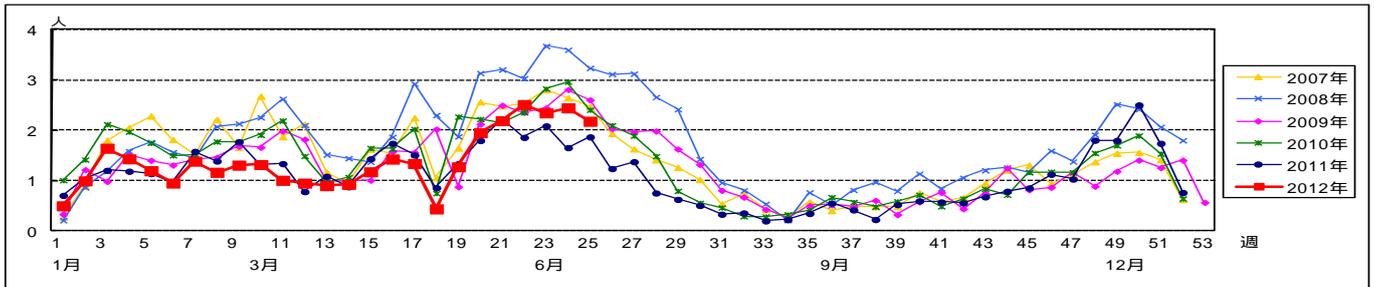
定点把握の対象

1 咽頭結膜熱:市全体で第 25 週 0.99 と増加しています。泉区では 13.00 と警報レベルを上回りました。例年夏季に流行する疾患なので、今後の注意が必要です。予防対策は、うがいや手洗いが重要です。また、プールの前後はシャワーをよく浴びるようにしましょう。学校保健安全法上は、第二種の学校感染症に分類され、出席停止の対象となっており、登校基準は「主要症状が消退した後 2 日を経過するまで出席停止とする。ただし、病状により伝染のおそれがないと認められたときはこの限りではない。」とされています

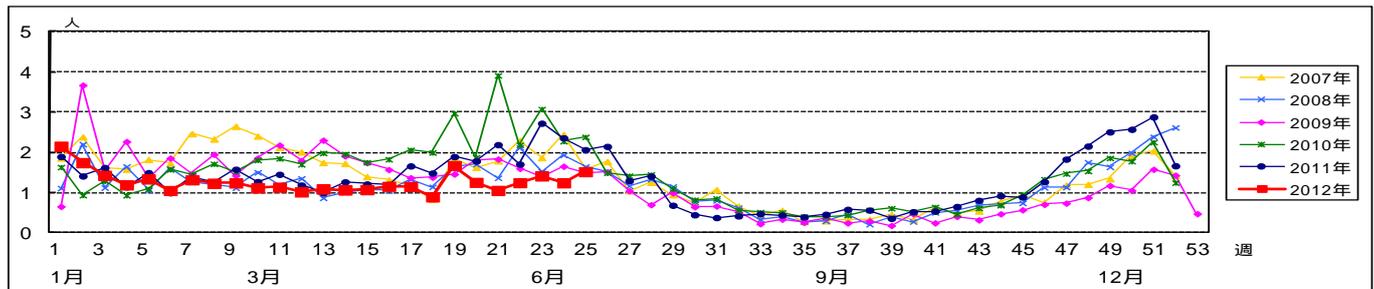
平成 24 年 週 - 月日対照表	
第 22 週	5 月 28～6 月 3 日
第 23 週	6 月 4～10 日
第 24 週	6 月 11～17 日
第 25 週	6 月 18～24 日



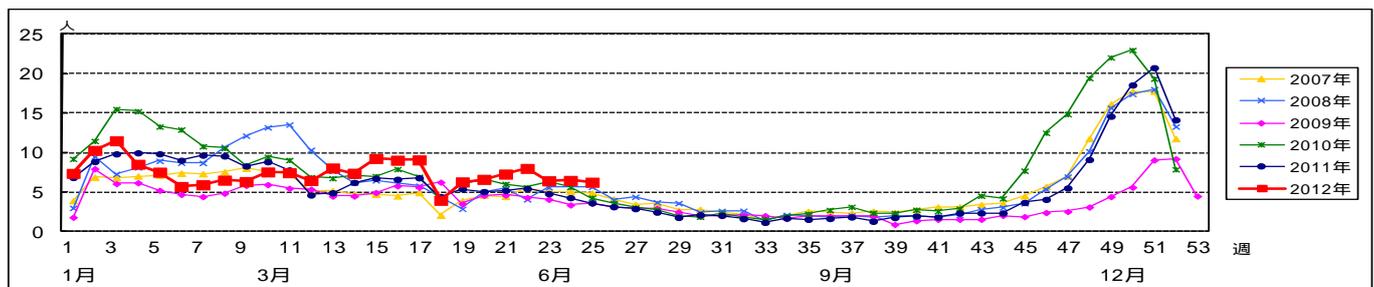
2 **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**:市全体で第22週に2.51と増加傾向でしたが、第25週では2.18とやや減少しました。区別では瀬谷区で第23週8.25、第24週8.50、第25週7.50と警報レベルを上回る状態が継続しています。例年5月～8月にかけて報告数が増加するので、今後の注意が必要です。



3 **水痘**:市内全体で第25週1.52と落ち着いています。緑区で4.25と注意報レベルを上回っています。



4 **感染性胃腸炎**:市内全体、区別でも警報レベル(定点あたり20.0以上)を大きく下回っていますが、例年に比べて報告数がやや多い状態が継続しています。



5 **性感染症**:5月は、性器クラミジア感染症は男性が25件、女性が12件でした。性器ヘルペス感染症は男性が5件、女性が8件です。尖圭コンジローマは男性4件、女性が3件でした。淋菌感染症は男性が13件、女性が0件でした。

6 **基幹定点週報**:マイコプラズマ肺炎は全国的に流行しており、特に昨年度末は1.60～1.40(例年定点あたり0.2～0.6程度で推移)と増加しました。最近では、22週0.83、23週0.88、24週0.82、25週0.90と落ち着いてきたものの、例年を上回る状態が持続しています。横浜市でも第22週0.00、23週2.50、24週1.00、25週2.00と、前シーズンの第22週0.50、第23週0.50、第24週1.00、25週0.33をやや上回っています。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

7 **基幹定点月報**:5月は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症6件で、薬剤耐性緑膿菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。  
 横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>